

ダイジェスト版

複式簿記から 公認会計士の世界へ

東北工業大学

2017年5月18日

公認会計士・監査審査会 会長

廣本 敏郎

I 公認会計士とは —“監査”及び“会計”の専門家

■公認会計士の使命

公認会計士は、国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

《公認会計士法第1条》

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

■会計なくして経済なし

公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、極めて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。

MISSION

資本市場の番人として、企業等の財務情報の信頼性を確保し、投資家等を保護しています。

企業が作成する財務書類の検証

公認会計士

Certified Public Accountant (CPA)

PROFESSIONAL

監査・会計の専門家として、高度な専門知識を活かし、多様なニーズに応じて専門的な視点から助言・指導を行っています。

株式公開支援 / M&A / 組織再編

※このほか、税理士として登録を行うことにより、税務業務を行うことができます。

GLOBAL

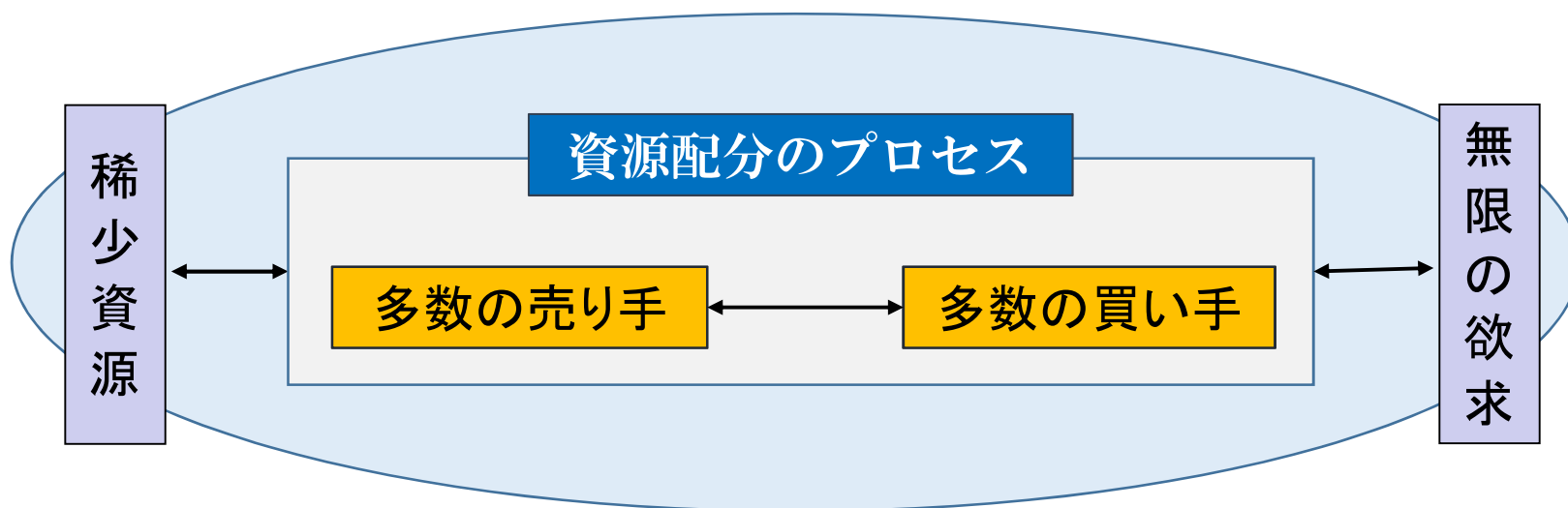
金融・資本市場のグローバル化、企業の海外展開等に伴い、活動のフィールドは世界に広がっています。

**グローバル経営戦略の策定
海外子会社を含むグループ決算**

会計なくして経済なし

市場経済の制度

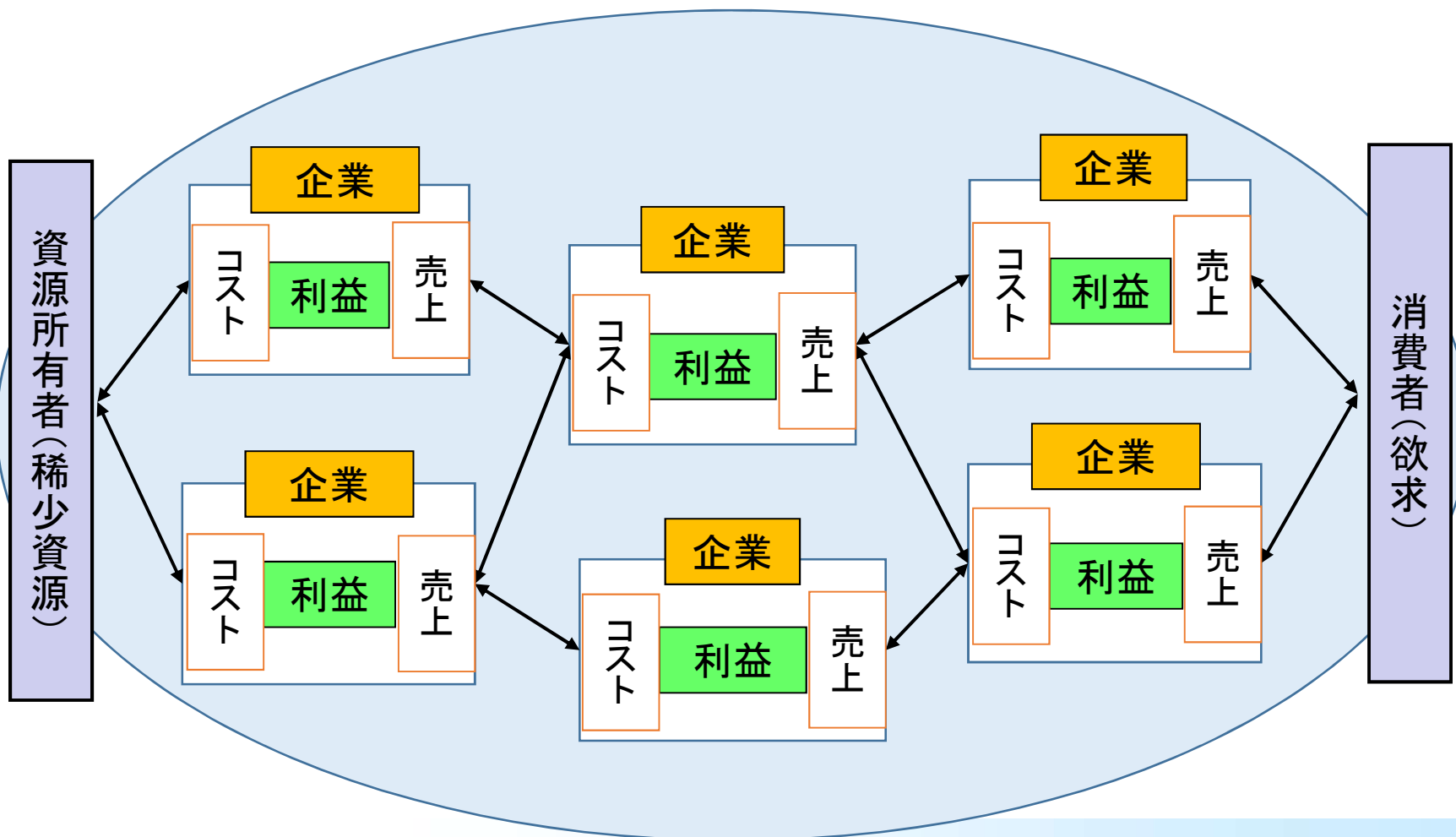
—市場参加者の自由競争—



奪い合いでも恣意的な配分でもなく、
売り手と買い手の対等な交換取引による配分

市場経済のインフラとしての複式簿記

～市場参加者の行動原理「売上最大、コスト最小」～



利益を測る会計技術の誕生

- 利益を測る会計技術としての「複式簿記」
 - いつ誕生？ ⇒ 遅くとも1400年代に
 - どこで誕生？ ⇒ 北イタリアで
 - 誰が ⇒ 地中海貿易に従事した商人たちが

複式簿記を生み出した！

(桜井久勝教授の夢ナビライブ2012講義より)

複式簿記の伝播と発展

- 1400年代
 - 北イタリアで誕生し、イタリア商人の活動によりヨーロッパ大陸各地へ伝播
- 1700年代
 - イギリスで製造業の会計（工業簿記、原価計算）が追加。ヨーロッパ人の移住によりアメリカへ伝播
- 1800年代
 - アメリカから日本に伝播

（桜井教授の夢ナビライブ
2012講義より）

明治における複式簿記の導入

- 複式簿記は、明治の文明開化によって、さまざまな文物とともに西洋から日本に導入された。
 - 日本における西洋式簿記の導入は、
 - 明治6年6月、幕末明治の啓蒙思想家である福澤諭吉が、ブライアントとストラットンの共著書Book-keepingを翻訳して出版したことに始まる。

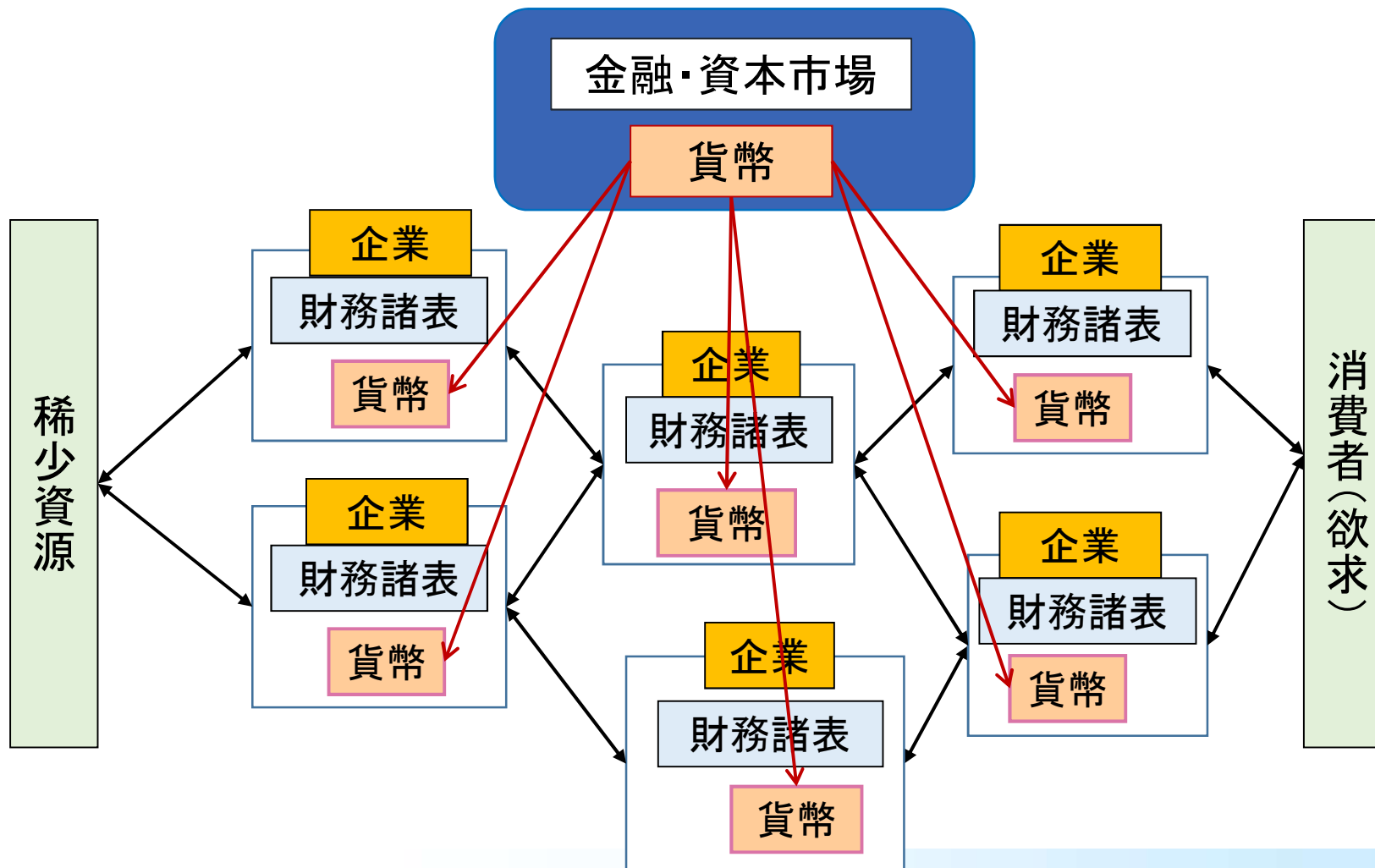
『帳合之法』の出版

- 福澤が後に記したところによれば、彼は「この原書を翻訳すれば大福帳の法に優ること万々なり」と信じ翻訳に着手。
 - 本書は『帳合之法』（1873年）と称して出版され、当時、神戸商業講習所の教科書として、また、東京商法講習所夜間部の教科書として使用された。

市場経済とモラル

社会的使命を担う公認会計士

金融・資本市場における財務情報の重要性



公認会計士の役割と責任 (1/3) ～所有と経営の分離～

- 企業が小規模で、その経営はオーナー経営者によって行われ、また、取引が比較的単純な性格のものであったときには、会計基準の必要性はほとんどなかった。しかし、
 - 大会社が出現、所有と経営の分離傾向が生じると、会計の任務は拡大された。
 - すなわち、オーナーでもある経営者のために会計を行うことに加えて、不在出資者への情報提供という機能が生まれた。

(続く)

公認会計士の役割と責任 (2/3) ～私的な会計から公的な会計へ～

- 大会社は準公共的な制度であり、大規模企業の行動を通じて社会的協力を遂行する機構である。大会社の業務活動は、直接の経営者や株主達の関心事たるにとどまらない。会社経営者の責任は、広く各種の方向に行き渡っている。
 - かくして、信頼し得る、適切な情報を提供するという会計の義務は、公衆の利益に結びつき、会計は公的な性格を帯びてきた。

(続く)

公認会計士の役割と責任 (3/3) ～私的な会計から公的な会計へ～

- 会計の公的な義務が認識されているかどうかを見究める、という役割の多くは、公認会計士の肩にかかっている。
 - 公認会計士は、この責任を果たすため、広い理解と鋭い正義感、そして高度の独立性を備えなければならない。

(ペイトン＝リトルトン (中島省吾訳) 『会社会計基準 序説 (改訳)』 森山書店、1958年、1-6頁)

公認会計士に対する社会の期待

日本公認会計士協会HPより

- 1949年に東京、大阪、名古屋をはじめとする8箇所証券取引所が開設、1951年、証券取引法に基づく公認会計士監査が開始された。
 - － 以後、証券市場の拡大とともに公認会計士監査の重要度は増し、公認会計士法の改正が加えられてきた。1966年には、企業の事業活動の大規模化に対応する組織的な監査を行うため、監査法人が誕生。1967年には学校法人監査、1974年には商法に基づく公認会計士監査導入など公認会計士への要請は証券市場だけでなく社会全般に拡大されていった。

金融行政方針 平成28年10月 金融庁

- 監査業務を担う公認会計士という職業に関心を持つ者の拡大を図るため、会計監査や公認会計士資格に関し、高校生等若年層や女性に向けた広報活動を、日本公認会計士協会等と連携して推進する。(15頁)
- 金融庁・日本公認会計士協会 作成パンフレット
公認会計士・試験合格者の活躍フィールド (2016年8月)
 - 公認会計士は、監査法人で勤務するだけではありません。監査業界に限らず、社会のさまざまな場面で会計専門家の知識・経験・判断力が必要とされています。

社会から信頼される公認会計士

- 公認会計士の活躍領域は、今日ますます経済社会のさまざまな分野に広範に広がっていますが、それは、これまで先人たちが高品質の監査を提供し、その社会的使命を立派に果たし、社会から高い信頼を得てきたからです。会計監査が今後とも引き続き社会から信頼を得ていくためには、急速に変化する経済社会の中で、経営者、監査委員会、規制当局、一般市民等を含む社会からどのように認識されているかに絶えず注意を払い、社会の期待に応えていくことが求められます。

(廣本「グローバルな監査品質の向上を目指して」

『会計・監査ジャーナル』2016年8月号、3頁)

公認会計士は、皆さんの未来の
魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき将来に向かって
悔いのない大学生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会 廣本敏郎